OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ガンと結核
Author(s)	堀, 三津夫
Citation	癌と人. 1973, 1, p. 14-14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24212
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ガ　ン　と　結　核

理事　堀　　三津夫*

昔は日本人の病気といえば結核でありました。昨今は病気といえば誰でもガン，ガンで，ガンノイローゼに近い状態のようです。しかし患者の数からいえば今なお結核患者が日本では一番多く，ガン患者の４～５倍はあろうと推測されますが，何といってもガンの致命率は結核にくらべてはるかに高く，またヒトのガンはその原因がはっきりしませんし，その上結核に対するような特効薬もガンではまだまだですので，ガンが恐れられるのは無理もないことです。

ガンに限らず，どんな病気でも，早くみつけて，早く適正な治療をうけるということが，病気をなおすこつですが，ガンも結核と同じように，病気の初期の間は自覚症状がすくなく，自分で調子が悪いと気付いて医師にみてもらったときは，病気はすでに大分進行しているということが多いのです。したがって，ガンも結核もひとりひとりが病気をよく理解しなければなりませんし，またできるだけしばしば健康診断をうけるのがよい，という点はよく似ています。

この頃は結核もガンと同じように50才，60才を過ぎたヒトに多くみつけられるようになってきました。だから体の調子が悪くないときでも定期的に健康診断あるいは検診をうけられて，病気を早くみつけてもらい，早く治療をうけられる機会をもたれるようにおすすめいたします。ガンを対象とされる場合は年に２回位の検診は必要でしょう。ガンでも早くさえみつければそんなに恐ろしい病気でもないことは，皆さんのまわりにもガンと診断されて適正な治療をうけ，現在は元気に働いていられる方がたくさんおられることでもご理解願えると思います。

ガンと結核はそれぞれ独立した病気ですが，昔は結核の病巣にガンがみられることはきわめて稀であるとされてきました。近頃は必ずしもそうではなく，肺結核症あるいはこれのよくなったあとにガンが一緒にみられることがときにはあると報告されています。このことは結核が高年令層にかたよってきたこともひとつの原因でありましょうが，本当のことはもっともっと研究を要します。

ところで，ガンと結核について最近耳よりな研究成績が発表されてきました。

皆さんはＢＣＧワクチンというものをご存知でしょうか。ＢＣＧというのは毒力の非常に弱いある種の結核菌でヒトに決して結核という病気を起しません。ですから生きたままのＢＣＧでワクチンをこしらえて，これを結核予防ワクチンとしてヒトに用いています。日本では30才以下のもので，必要なヒトにはＢＣＧワクチンの接種を法律で義務づけていますので，青少年の多くはＢＣＧ接種をうけています。

いまネズミ　にガンを起すガン細胞とこのＢＣＧワクチン（ヒトに使うのよりは濃いものです）とを一緒にしてネズミに注射しておきます。そしてこのネズミに再び同じガン細胞を皮下に注射します。そうすると，このような前処置をうけたネズミの多くはガンにかゝりません。一方このような前処置を何もうけていないネズミではガン細胞をうえますと，ガンはどんどん大きくなり，ネズミは遂には死んでしまいます。どうしてこのようなことが起るのか，いろいろ考えようがありますので，このからくりを明らかにするためにいろいろの条件で多くの研究がおこなわれています。

このような研究は現在はあくまで動物実験の段階ですが，将来ヒトのガンの予防に，また治療に，この種の研究の成果を利用される日が１日も早くくることを祈ります。

医学の進歩によって，ガンと結核という一見関係のない２つの病気がからみあってきました。げに研究こそ大事なものだ，ということをしみじみ感じながら筆をおきます。

＊ 大阪大学微生物病研究所長